

# リーダーシップが育つかは、 機会の提供とメンバーの本気度で決まる！

## 東洋電装株式会社

### 事業概要

制御盤製作会社として1974年に創業。

システム開発、製品開発、ネットワークなど幅広く対応し、高度な技術力と小回りの効く対応で、お客様のビジネスにスピーディなイノベーションを実現。

所在地：広島市安佐南区緑井4丁目22-25

URL：https://t-denso.com/

従業員数(うち女性人数)：88名(25名) 正社員数：73名(13名)

管理職数：6名(1名) ※R6年5月時点



### 取組テーマ



人事制度

人材育成

リーダーシップ

女性管理職

環境整備

人材定着

風土醸成

エンゲージメント

## 取組の背景と課題

### ■ 男性中心の風土による、女性管理職・女性ロールモデルの不在

東洋電装は、男性社員数が7割以上で、従来の製造業ならではの「男性中心」「女性はサポート」といった企業風土が根強く残っていた。過去には女性をリーダーに登用したこともあったが、女性管理職・ロールモデルが不在であったことや、周りも上手くサポートできなかったことから、軌道に乗せることはできなかった。

しかし、女性を含めた全員活躍の風土を作っていくことは会社の将来にとって欠かせない。そこで、社内プロジェクトを通じて、リーダーシップの成功体験を創出していくための取組をスタートさせた。

## 取組のロードマップ

### ■ 女性管理職輩出のための、リーダーシップの育成

STEP 1

課題・取組テーマの抽出

女性社員へのアンケート実施

プロジェクトメンバーによる  
座談会の実施

STEP 2

社内プロジェクトの実行

- ①ポータルサイトの改定・周知
- ②名刺交換イベントの実施

STEP 3

リーダーシップの育成

女性管理職候補輩出という  
目標に向かって  
女性人材の主体的取組を創出し  
実践からリーダーシップを学ぶ

## 取組の内容

### ■「成功体験の創出」のために、社内プロジェクトを発足

女性メンバーだけの社内プロジェクトを発足し、会社のために何ができるかを自分たちで考え、企画から実行までを、メンバーだけでチャレンジしてもらった。目的は、「チャレンジへの恐怖払拭」、「成功体験の創出」によって、リーダーシップを育むことである。

メンバーによる座談会や女性社員へのアンケートによって取組テーマを選定。2つのチームに分かれ、「ポータルサイトの改定」と「名刺交換イベント」の2つのテーマに取り組んだ。

## 取組の成果

### ■「できたらいいな」から、「やるからには成果を出す」に！

社内プロジェクトを発足したものの、プロジェクト経験の無いメンバー達は、初めての試みで何から始めればいいのか分からず、ほとんど進展しない状況が半年ほど続いた。また本業が忙しく、プロジェクトへのコミットが難しくなるメンバーがいたが、それを言い出せないまま続けているメンバーも散見された。そこで話し合いの場を持ち、「色々な事情があるから、プロジェクトから抜けるのは悪いことではない。本気でプロジェクトに取り組めるメンバーだけで仕切り直そう」と決め、一部メンバーには前向きに抜けてもらい、残ったメンバーで「やるからには成果を出さなければいけない」と、意志を強く持って再スタートを切った。

その後、それぞれの得意分野を活かしたテーマを選定。社内の情報展開チームで取り組んだポータルサイトの改定・周知は、社内認知度100%、社内のコミュニケーションチームで取り組んだ名刺交換イベントは、全社員の9割が参加し高い満足度を示すなど、予想以上の成果を収めた。

社内プロジェクトであろうと成果にコミットし、本気でやり切ることにメンバーの自信となり、リーダーシップを育むことに繋がったのである。



## 企業担当者 Voice

上司から「良い経験になるから」と、突然今回のプロジェクトリーダーを任せられ、最初は不安しかありませんでした。プロジェクトを進めていく上で本当にたくさん悩み、失敗もしましたが、小笠原アドバイザーの支援とメンバーの協力があって、無事やり遂げることができました。

このプロジェクトを通じて、自分の成長に繋がったと感じると共に、失敗を恐れず、飛び込む勇気が大切であると、心から実感しています。



制御盤システム事業  
FRICS Fab. チーム 営業 平川氏

## アドバイザー Voice

桑原社長に初めてお会いした時、女性にもっと活躍してほしいと強く望んでおられたことを覚えています。一方で女性社員は、どのように頑張ればよいか分からない状況でした。女性メンバーは、全社にメリットのあるプロジェクト運営の実践を通じて、頑張り方を学ぶことができたと思います。

成果、建設的意見、根拠、合意形成、説得、自己責任。これらを意識し、何回も転んでは起きてを繰り返しました。実はこの繰り返し自体が活躍であると考えています。



社会保険労務士法人サトー  
小笠原 弓子氏